



蕨を伝える「自慢の一品」をご紹介します

# WARABI BRAND



## 蕨ブランド認定品 Contents

株式会社あぶらび ■ 蕨産のゆずを使ったマドレーヌ	4
kalra(カルラ) ■ 双子織ヘアバンド 織り髪-Origami-	6
株式会社フレル ■ わらびもちショコラ	8
株式会社オールアージュ ■ ぎゅうぎゅうわらびグッズ	10
蕨市多機能型事業所 スマイル松原 ■ 小さな蕨の小さなパン 結	12
わらびりんご生産管理団体 ■ わらびりんごシャーベット	14





## 第三期 蕨ブランド認定品が決定しました！

### 1 株式会社あぶらび

蕨産のゆずを使った  
マドレーヌ

237円 ※季節限定商品



### 2 kalra(カルラ)

双子織ヘアバンド  
織り髪-Origami-

2,300円



### 3 株式会社フレル

わらびもちショコラ

345円



### 4 株式会社オルアージュ

ぎゅうぎゅう  
わらびグッズ

500~2,200円



### 5 蕨市多機能型事業所 スマイラ松原

小さな蕨の小さなパン 結

350円 ※受注生産となります



### 6 わらびりんご生産管理団体

わらびりんご  
シャーベット

350円



※上記価格は全て税込み。(2023年3月現在)



第一期 第二期 第三期  
 蕨ブランド認定品  
**MAP**



## 第一期・第二期 蕨ブランド認定品をご紹介します

歴史やストーリー性など蕨らしさを有した優れた商品を蕨ブランドとして認定する「蕨ブランド認定制度」。これまでに認定された商品は10品です。蕨の地域資源であるわらびりんごを使用したサイダーをはじめ、蕨の伝統織物である双子織を使用したバッグや日傘、スポーツウェア、河鍋暁斎の下絵をモチーフにしたガラス工芸品ほか、蕨の認知度向上に寄与する蕨書き順Tシャツや着服、蕨もちやNゲージなど、どの商品も厳正なる審査の上、認定された逸品です。

下段では、第一期から三期までの認定品の販売場所をマップにまとめましたので、ぜひ、足を運んでみてください。

### 第一期認定品 ▶▶

#### 株式会社ワイアンドシー

IBIZA  
双子織バッグ

※現在は生産終了



#### 有限会社上田衣料

「蕨上田」  
オリジナル着服

住所: 埼玉県蕨市塚越2-3-13



#### 株式会社プラスト工房

蕨硝子  
(河鍋暁斎シリーズ)

住所: 埼玉県蕨市北町3-6-2



#### 有限会社クチュールカワムラ

蕨双子織  
ショルダーバッグ

住所: 埼玉県蕨市中央3-2-9



#### わらびりんご生産管理団体 (蕨市商工生活室内)

わらびりんごサイダー

販売場所: スマイラ松原売店や市民体育館、酒類商組合協力店舗ほか、市内の催しで購入できます。



### 第二期認定品 ▶▶

#### 有限会社染太郎

蕨書き順Tシャツ

販売場所: 蕨市観光協会や市内のお祭りほか、同社HPで購入できます。



#### 株式会社マイクロエース

C11-304蕨保存車

販売場所: マイクロエースでは、販売は行っておりません。市民体育館ほか、市内の催しで購入できます。



#### 株式会社ニニ

双子織  
トラックジャケット

住所: 埼玉県蕨市塚越5-50-4



#### 蕨双子織夢工房

双子織日傘

販売場所: 「WARABI SELECT SHOP」や「flagsflag」で購入できます。



#### 一般社団法人蕨ブランド協会 WARABI SELECT SHOP

わらびの蕨もち

住所: 埼玉県蕨市中央3-6-4



## 蕨を伝える自慢の逸品 「蕨ブランド認定制度」



2023年3月  
蕨市長 頼高英雄

蕨市では、にぎわいあふれる元気なまちづくりに向けて、蕨の豊かな地域資源や特長を活かして企画開発された、優れた商品を認定し、市が自信を持ってお勧めする「蕨ブランド認定制度」を設けています。

2016年に第一期、2019年度に第二期の認定が行われ、この間、「蕨ブランド」は、多くの市民の皆さんに愛されるとともに、メディアにも度々取り上げられるなど、蕨の魅力を発信するシティプロモーションの柱として、大きく成長してきました。

第三期となる今回は、「蕨ブランド認定審査会」での2段階の審査を経て、6事業者6品を新たな「蕨ブランド」として認定いたしました。いずれも蕨が誇る事業者の皆さんの蕨愛にあふれた逸品ばかりです。

このパンフレットには、認定品の魅力もさることながら、事業者の皆さんのこだわりや熱意もご紹介しています。ぜひ、1人でも多くの皆さんに実際に手に取っていただき、その素晴らしさを体験していただければ幸いです。





株式会社あぶらび

## 蕨産のゆずを使ったマドレーヌ



田口 さんこだわりの品揃え

果皮もピールとして使用

ゆずの生産者・山下民子さんと

## 地域貢献がモットーの小さな総合小売店

株式会社あぶらびは、文具を中心に玩具や雑貨、食品やお酒も販売する小さな総合小売店です。2015年の創業時はネット通販会社でしたが、2022年7月に自宅を改装し実店舗がオープンしました。

創業時から地元を盛り上げたい一心で、市の祭りや地域のイベントに積極的に参加してきた代表取締役の田口さん。現在は市内の子ども食堂の活動も支援するなど、SDGsの取り組みにも注力。その人柄で広がった人脈はあぶらびの商品開発に生かされています。

住宅街に佇む店内に足を踏み入れると、見沼の養蜂家の手作りはちみつや蓮田の農家が完全無農薬で作った古代米、老舗酒蔵とのコラボによる日本酒など、こだわりの商品が所狭しと並びます。県内や地元企業との繋がりを大切にする田口さんの信念が感じられる品揃えです。様々な地域の要望にお応えしているうちに取扱品目が増えていったそうです。

店舗の営業日は金・土・日曜日と限られていますが、その分地域を飛び回り、蕨や埼玉県をテーマにした商品開発に勤しむ。郷土愛あふれるあぶらびの商品づくりから目が離せません。

## 季節限定・数量限定の素材を活かしたマドレーヌ

こんがりとした生地と焼けた生地の甘い香りに誘われて、口に含むと程よい甘さの中にゆずの風味がしっかりと感じられるマドレーヌ。田口さんが持ち前のフットワークの良さを生かし、市内農家と障がい者施設との連携で誕生した地産地消の商品です。

2022年11月、錦町の農家・山下民子さんの畑で、手が届くほどの高さに実ったゆずを市民の皆さんと一緒に収穫する田口さんの姿がありました。「蕨で農業が営われていることを知ってほしい」と田口さんが市と協働で企画した収穫祭です。当日はマドレーヌを製造する障がい者施設の菓子工房「晴れ晴れ」も参加。「蕨のゆずは自然栽培で作られているので、市販のものより実が引き締まっているのが特徴。それを活かして程よい食感になるよう心掛けています」と石崎所長。果皮もピールとして使うことで、ゆず本来の旨みに加わるだけでなく、廃棄を減らす取り組みにも繋がっています。

なお、蕨産のゆずは収穫量が限られているため、マドレーヌは季節・数量限定の商品となっています。同時期にゼリーも販売しますので、ぜひ食べ比べてみてはいかがでしょうか。

## Interview

株式会社あぶらび  
代表取締役 田口 智章さん



住宅密集のイメージが強い蕨市でも、立派な農産物を作っている農家さんがいる。農産物の出来栄を競う「蕨市園芸品評会」で丹精込めて育てられたゆずを目にし、マドレーヌなど、親しみやすい加工品にすることで、蕨の農業の啓発に繋がるのではないかとこの想いから商品開発に取り組みました。ゆずだけでなく、レモンやすだち、橙など柑橘類を育てている農家さんもいますので、収穫祭のような体験型の企画も含めた商品づくりで、蕨の果物シリーズとして展開していき、より多くの人に蕨の農産物の美味しさを楽しんでいただければと思います。

### 株式会社あぶらび

住所 蕨市中央7-2-1 営業時間 午前11時～午後6時  
電話 048-234-6740 定休日 月～木曜日

※販売は上記店舗。マドレーヌは季節限定商品です。なくなり次第終了。そのほか、新商品がぞくぞく。気になるかたはHPをチェック。







## お気に入りのハンドメイド作品に出会えるお店

“ヒトハタアゲヨウ!!”と、蕨市の創業講座を受講した主婦3人が一念発起して2018年10月にオープンしたハンドメイドショップ「flagsflag」。温もりが感じられる店内には、大量生産ではなく1点1点オリジナルのアクセサリーやバッグなどが並び、何度来ても楽しいと評判のお店です。

多種多様で個性的な作家の作品を、魅せる商品ディスプレイでまとめているのは、創業者の一人で副店長を務める kalra・山田さんです。2児の母であり、布小物作家としても活動している山田さんの作家デビューは2016年。戸田市のイベントに参加し、作品が売れる喜びを知りました。

「子育てママとキッズの毎日が楽しくなるような布小物」をコンセプトにしている kalra の商品ラインナップは年々変化します。それは我が子の成長に合わせて、作る商品が変わるため。「当事者であることが流行や使用感に敏感になれる」と山田さんの、我が子を想い、デザインや使いやすさにこだわって作ったキーケースや、ティッシュやハンカチが入られる移動ポケットなどの「オトコマエ」シリーズは既製品にはないこだわりが詰まっており、同世代の子育てママたちに好評です。

## 髪をより一層すてきに魅せるヘアバンド

蕨の伝統織物の双子織を、ママ世代が気軽にオシャレに楽しんでほしい。「双子織ヘアバンド織り髪 -Origami-」は、女性の髪をより一層すてきに魅せたいとの想いを込めて作成されました。

伝統的な双子織の縞柄と無地布を現代的にアレンジし、光沢のあるシェルボタンと金糸のモチーフが目目を引くヘアバンドは、左右の顔の向きで印象が変わります。カラーバリエーションも豊富にあり、「その日の気分で着けるヘアバンドを決めています」と、新作が出る度に購入する愛用者も。ゆったりとした作りで年齢や体形、髪型に左右されることなく着用でき、山田さんのセンスが光る逸品は、審査会でも「海外のかたにも受けるのではないかと」高評価でした。

主婦が意を決してお店を持ち、手掛けた商品が蕨ブランド認定へ。髪をすてきに魅せたい想いは万国共通。海外展開も視野に入れた kalra のサクセスストーリーはまだ始まったばかりです。

なお、kalra の商品は「flagsflag」で販売しているほか、新作やイベント出店情報などをインスタグラムで紹介していますので、チェックしてみたい方はぜひご覧ください。



カルラ kalra

## 双子織ヘアバンド 織り髪 -Origami-



開店初日に創業者3人で記念撮影



1つ1つ丁寧に仕立てます



左右で違った印象に



家族のイニシャルを屋号に



人気のオトコマエシリーズ



お気に入りの1点物を見つけたのもお店の魅力

## Interview

kalra  
山田 麗子さん



蕨の機織業が興った塚越が地元で、機織りの神様が祀られている機神社に、子どもの頃からお参りに行っていました。

布小物作家となり、一度は扱ってみたいと思っていた双子織。ご縁があって、色々な人たちのサポートもあり、自信を持ってお勤めしたいヘアバンドが完成しました。ママが身に着けることで、子どもたちが双子織を身近に感じ、蕨の伝統を未来に繋ぐ橋渡しになればいい。「織り髪 -Origami-」は、海外のかたにも馴染みやすい響きにもこだわっています。このヘアバンドが蕨を飛び出し、国内外で目にするのが目標です。

カルラ kalra

住所 蕨市中央 4-22-21 営業時間 午前9時半～午後4時半  
電話 048-290-8727 定休日 日曜日・祝日

※販売は上記住所のハンドメイドショップ flagsflag 内。  
旬な情報は kalra のインスタグラムをチェック。







株式会社フレル

## わらびもちショコラ



心躍らせる洋菓子の数々

上質と温もりが感じられる店内

## 見て、食べて心ときめく洋菓子を

洋菓子の甘い香りに包まれた煌びやかな店内、ショーケースに並んだ色鮮やかなマカロンに心が躍ります。戸田市との市境、南町に店を構える「ラ・パティスリー・ドゥ・フレル」。フランス・パリで修業した本格派の洋菓子職人・田村さんが、熟練の技術をちりばめたスイーツの数々から店内空間まで、その世界観を表現した洋菓子店です。

「マカロンを文化に」を指針として、2016年の開業時からの主力商品であるマカロンは、生地を一週間寝かせることで外はさっくり、中はしっとり。その生地の間には素材の個性を見事に調和させたクリームをたっぷり。新鮮なフルーツを使用した色鮮やかでフルーティな味わいなど20種類以上の個性的で贅沢なマカロンが店内に並ぶ様子は宝石箱のようです。

「見て楽しみ、食べて感動していただける洋菓子店」を目指し、こだわりが随所に詰まった「フレル」。その店名に込められた想いは「触れる」。ぜひ、その世界観を体感してはいかがでしょうか。

## 口の中で織りなす楽しい食感のハーモニー

2021年3月、蕨商工会議所の企画で市内の和洋菓子職人が腕を振るい誕生した「わらびおやつ」。その1つがフレルの「わらびもちショコラ」です。いきなり食べて感想を言う一発撮りのPR動画で、一口ほおばった瞬間に若い女性の笑顔が弾けます。なめらかで濃厚なガナッシュの後に、モチっとした食感。かと思いきやサクサク。不思議な感覚に思わず「楽しい!」。そして、「美味しい!」と声を上げる。田村さん渾身のスイーツは、食べた人を笑顔にさせる逸品です。

商品誕生の転機は2018年。マカロンからの次の展開として、田村さんが得意とするチョコレート売り出していこうと設備投資を行い、目玉商品の開発に乗り出します。蕨のPRに繋がり、かつ斬新なスイーツができないか。パリでの修業時代、三ツ星レストランシェフから教わった「アンヴェルセ製法」によるパイ生地と、試行錯誤の末、完成したわらび餅をシート状に加工する技術を組み合わせ、仕上げは一週間以上手間ひまかけて仕込んだチョコレートでコーティング。熟練の技が織りなす、見た目からは想像できないオリジナリティあふれる新感覚のおみやげが誕生しました。甘い物好きを虜にさせるご当地スイーツは、同店ほか、「WARABI SELECT SHOP」でも購入できます。

## Interview

株式会社フレル  
代表取締役 田村 洋樹さん



蕨にお店を開いたときから、地域に貢献したいとの思いがあり、蕨のPRに繋がるような手みやげを考えたときに、わらび餅という蕨をシンプルにアピールできる素材と、当店自慢のパイ生地やガナッシュを重ね合わせることで、蕨の伝統織物の双子織をイメージしたチョコレート菓子を考案しました。

双子織の経糸と緯糸のように、地域とたくさんのお客様に寄り添い、蕨市とともに愛され親しまれるロングセラー商品となるよう願いを込めて開発しました。和菓子と洋菓子の組み合わせと意外性をぜひ、ご賞味ください。

### ラ・パティスリー・ドゥ・フレル

住 所 蕨市南町4-12-20 営業時間 午前10時～午後7時  
電 話 048-242-3433 定休日 火曜日  
※販売は上記店舗と WARABI SELECT SHOP (中央3-6-4)







## わくわく感を創造する気鋭のクリエイター

蕨のものづくり事業者が軒を連ねる蕨工業団地の一角で「わくわくする、もの・ことづくり」をテーマに、彫刻ワインやギフトなど様々な製品の企画や制作を行っている株式会社オルアージュ。見た人の心をくすぐるようなデザインや企画に定評があり、2003年の創業以来、「ものづくりをゼロから形にする」という理念のもと、自社商品だけでなく、著名な女子プロゴルフトーナメントのトロフィーを手掛けたり、和楽備神社の祀り100周年記念として行われた参集殿新築事業のプロデュースを行ったりと、枠にとらわれず時代に合わせたものづくりに取り組むクリエイティブ集団です。

社名の「オルアージュ」は、英語の「all」と「age」の組み合わせと響きを掛け合わせた造語で、「全ての時代、世代に」や「全ての人が集まってくる場所」。そんな意味が込められていて、社名のとおり、オルアージュには実に幅広い年代の人たちから様々な要望が寄せられます。地域の魅力を伝える企画にも熱心で、ゼロベースの相談でも相手に寄り添った提案を行うことから、企画担当者からの信頼も厚く、チラシやパッケージデザイン、ウェブ制作など数多く手掛けています。

## 蕨の特徴をかわいくポジティブに!ご当地デザイン誕生

代表取締役の田中さんは、戸田市の出身ですが、幼少期を蕨で過ごすことも多く、地元愛にあふれるかた。地元が盛り上がる一助になればと「地元サイコー!」をカタチにする「@ローカル」プロジェクトを立ち上げました。プロジェクトでは、マニアックな要素とインパクトで蕨や戸田市民の地元愛をくすぐる3種類のTシャツ制作からスタート。その1つが「ぎゅうぎゅうわらび」です。

愛くるしいワラビーがぎゅうっと身を寄せ合っているイラスト。蕨市=「人口密度日本一の市」をキャッチーでポジティブにアピールできちゃう斬新な発想とかわいらしさで、蕨市が掲げる「コンパクトシティ」が表現されています。色は白とグレイがあり、サイズもキッズ(110~140cm)と大人(S・M・L)で展開していますので、親子コーデはいかがでしょうか。

Tシャツのほかにも、マグカップやトートバッグ、アクリルキーホルダーもあり、どの商品も第一印象で「かわいい!」かつ日常に溶け込むカジュアルさ。自分で使うもよし、おみやげとして渡すもよし、さりげなく、着々と蕨愛を広めたいあなたにお勧めの商品となっています。



株式会社オルアージュ

## ぎゅうぎゅうわらびグッズ



みんなでアイデアを出し合う企画会議



アイデアを基にラフを作成



キュートなデザインに

## Interview

株式会社オルアージュ  
代表取締役 田中 直樹さん



蕨に限らずですが、地方に行く際の手みやげとして東京みやげを選びがちだと思います。私の理想はそれが地元の品になったらいいなと。そして「作るなら我が社らしく振り切ったものづくりをしよう!」と社内でアイデアを出し合い誕生したのが「ぎゅうぎゅうわらびグッズ」です。ご当地デザインですので、既存の製品との親和性も高く、多くの人に蕨を知ってもらうツールとして、地元企業とコラボ商品も展開し、一緒に蕨を盛り上げていきたいですね。「何、これー!? (笑)」と行く先々でグッズを通じて会話に花を咲かせてくれたらうれしいです。

### 株式会社オルアージュ

住 所 蕨市錦町2-6-1 (蕨工業団地内)  
お問い合わせは平日午前9時~午後5時に ☎ 048-430-1100 へ  
※販売はネット通販のみ。詳しくは同社HPでご確認ください。



ニチレイレディス優勝トロフィー



ZARD25周年オフィシャルワイン



## 大きな感謝を小さなパンにぎゅっと込めて

午前10時を過ぎる頃、施設内に焼きたてのパンの香りが立ち込めます。スマイラ松原が障がい者の就労支援の場として、総合社会福祉センター内に工房を構えたのは1997年。以来、地域のかたがたの「美味しいね」を励みに、利用者の皆さんが力を合わせて日々パンを作っています。これまでに生み出したレシピは300以上。その中で10年以上、商品化に向けてずっと温めていたアイデア。それが小さな蕨の小さなパン「結」です。

いつもお世話になっている地域に恩返しをしたい。商品化の原点は、利用者の皆さんの感謝の思いから。一人暮らしの高齢者でも食べ切れる手のひらサイズの小ぶりなパンは生食がお勧めで、口を含むとパンの耳はもちっと、中はきめ細かくほんのり優しい甘みを感じられます。その秘密は生地に練乳が練り込まれているため。商品開発では、生地を混ぜるタイミングや焼く温度などが難しく、何度も失敗を重ねたそうです。試行錯誤の末、完成したレシピを基に、利用者の皆さんがそれぞれの能力に応じた作業を担い、1つ1つ心を込めて成形していきます。蕨の手みやげとしてご利用いただけるように、パンの側面には市のマスコット「ワラビー」の焼き印を施し、パッケージには蕨の双子織を模した帯を使用。蕨らしさやかわいらしさ、美味しさを兼ね備えた商品となっています。

## 商品名に込めた思い これからも地域の皆さんとともに

スマイラ松原では、あんパンやカレーパンなど定番のパンに加え、季節限定商品など約20種類のパンを製造し、センター内の売店をはじめ、市役所や公民館、市内の協力企業などへ出張販売を行っています。利用者の皆さんにとって地域のかたがたとふれあう出張販売は、緊張しながらも楽しい時間です。パンの製造・販売を通じて地域との繋がりを深めていく。小さな蕨の小さなパン「結」の商品名には、いつも支えてくれている地域のかたがたへの感謝の気持ちと、出合いを大切にいつまでも結ばれていきたいとの思いが込められています。

こうした思いは、活動の場を更に広げていきます。思いに共感してくれた市内商店との協働によるコラボ商品の開発です。「学ぶことが多くて、とても貴重な繋がりができた」と須藤所長。スマイラ松原は、これからも地域とともに成長していく事業所を目指します。



蕨市多機能型事業所 スマイラ松原

# 小さな蕨の小さなパン「結」

YUI



大きな感謝をパンに込めて

1人1人が得意なことを生かして工程を分担

総合社会福祉センター1階にある売店

## Interview

スマイラ松原  
所長 須藤 由美さん



施設に通う障がい者の皆さんは、地域のご理解とご支援により生活しています。でも、利用者の皆さんと日々接するなかで、言葉にはできなくても「私たちも誰かの役に立ちたい」と思いながら仕事をしていることを職員一同肌で感じており、その気持ちを形に表したいと商品化に取り組んだのが「結」です。利用者や職員のひたむきな姿勢を所属長として誇りに思いますし、蕨ブランド認定を機に「結」を通じて、地域との繋がりを更に深め、笑顔の輪を広げていくとともに、地域福祉が育んだパンとして蕨市のPRに貢献していきたいと思っています。

### 蕨市多機能型事業所 スマイラ松原

住所 蕨市錦町 3-3-27 (蕨市総合社会福祉センター内) 営業時間 午前10時～午後2時半

電話 048-444-6647 定休日 土・日曜日、祝日

※「結」は受注生産のため、お買い求めの場合は同施設にご連絡ください。







わらびりんご生産管理団体

## わらびりんごシャーベット



桜と入れ替わるように咲く白い花



小ぶりで強い酸味が特徴のわらびりんご



わらびりんご開発者の故・吉澤正一さん



地域の皆さんと一緒に収穫(わらびりんご公園)



入賞

## 開発者の想いを引き継ぐ街ぐるみのプロジェクト

日本一小さな市、人口密度も日本一。住宅都市を連想する蕨市でりんごが採れるんです！それも日本一早く実がなる小さなりんご。「りんごのない季節に、病人や子どもに新鮮なりんごを」と錦町の農家、故・吉澤正一さんが約20年の研究・開発の末、1981年に誕生した蕨生まれのりんごです。「わらびりんご」の愛称で親しまれ、2009年の市制50周年を機に、地域の宝として広めていこうと、市民団体や農家の有志が接ぎ木して苗木を増やし、本格的な育成に取り組んでいます。

4月の初め、桜と入れ替わるように白く可憐な花を咲かせ、初夏の日差しを一身に浴びたりんごは6月中旬に収穫期を迎えます。収穫の様子は毎年のようにメディアで紹介される蕨の風物詩。公園や小学校など、地域の皆さんと一緒に収穫したりんごは蕨の特産品へと生まれ変わります。商品化第一弾は、スッキリとした味わいと喉の奥で弾ける爽快感が人気のわらびりんごサイダーです。故・吉澤さんが遺した情熱は、加工品として後世に一。収穫量とともに商品開発の夢も膨らみます。

## 商品化第二弾は初恋を想起させるシャーベット

りんごをイメージさせる真っ赤なパッケージ、ふたを開けると淡いピンク色のアイスがのぞかれます。キャッチコピーは「First Love Flavor (初恋風味)」。わらびりんごサイダーに続く商品化の第二弾は、甘酸っぱい爽やかな味わいが初恋を想わせるシャーベットです。

素材を活かしたオリジナルアイス作りに定評がある熊谷市の「ジェラートマリノ」と商品開発に取り組んだのは2019年の夏。イベントで試験販売を行ったところ、高評価を得ました。商品化した2020年には埼玉県が創設した「新商品アワード」で、県内60点の特産品の中からみごと入賞を受賞。わらびりんごの特徴である酸味がしっかりと感じられるように果汁をたっぷり使用していて、暑い夏やお風呂上り、食後のデザートに食べたくなる商品となっています。また、アレンジレシピとして、シャーベットを氷がわりにスパークリングワインやお好みのサワーで割るのもお勧め。簡単にわらびりんごフローズンカクテルができあがります！至福のひとつときをぜひご堪能ください。

なお、シャーベットは下記市内3か所で購入できるほか、川口市とさいたま市のJA直売所、群馬県片品村の道の駅でも販売中。蕨を市内外に発信する商品として好評を得ています。

## Interview

わらびりんご生産管理団体  
会長 奥田 光由さん



地域資源を活用したまちおこしの一環として、蕨の限られた農地の中で工夫しながらわらびりんごの育成に努めるとともに親しみやすい商品の開発に取り組んできました。収穫量も年々増え、新たな商品化に向け、お酒などの試作も行っています。

わらびりんごは地域の宝ですから、今後は子ども達の思い出に残るようなイベントを年間通じて行いたいですね。わらびりんごでお花見や収穫体験、収穫祭など、商業者も交えて街ぐるみで交流することで、様々なアイデアをいただきながら、活動の幅を更に広げていければと思います。

### わらびりんご生産管理団体

問い合わせ 蕨市商工生活室  
(☎048-433-7750)

※そのほか、詳細は市HPでご確認ください。



販売場所 クアッカ 蕨市中央 3-13 11:00~14:00 (LO13:30)

定休日: 土・日曜日、祝日

萬寿屋 蕨市北町 2-10-9 10:00~18:00

定休日: 月曜日、第4、5日曜日

酒屋なかも勢 蕨市塚越 4-2-15 9:00~21:00